

体験の風をおこそう

教育講話と遊びリンピック

石垣市教育委員会主催で家庭教育支援チームが主管する「体験の風をおこそう・教育講話と遊びリンピック」が、十月二十八日に行なわれました。

会場は市立真喜良小学校で、参加チーム数は十九チーム（一チームは三世代の五人）、約百名が参加しました。

この催しは、石垣市家庭教育支援活動の一環として、未来を担う子供達の健やかな育成と、地域全体の教育力の向上を図る目的で、子・親・祖父母による三世代交流が行なわれたものです。内容は、草笛とハーモニカの競演によるアトラクションに続き、「かっぱのげんさん」こと山内満豊さんによる教育講話「心の花は、昔遊びから咲いた」で始まりました。



◎ 第1部 講話と遊びの実演

げんさんの講話では、遊びが如何に大事か、必要なものを語ってくれました。そして巧みな遊びの技を見せて、会場は大変な盛り上がりとなりました。



◎ 第2部 遊びリンピック競技会

競技会は竹トンボ十九チーム、紙ヒコーキ十九チーム、竹うま四チームの三種目に別れ、体育館とグラウンドを使って行なわれました。

竹トンボは、大人も子供も飛ばすのに苦労していたようです。また紙ヒコーキでは、子供達が大人顔負けの飛ばし上手を、そして竹うまではお年寄りが貫禄の走りを披露していました。



◎ 表彰の部

表彰は石垣市教育委員会いきいき学び課、砂川課長より賞状とメダル（提供は「体験の風をおこそう運動推進委員会」松本零士会長・アニメ銀河鉄道999の作者）が授与されました。

★ 竹トンボの部

金 真喜良第2団地B

銀 双葉子供会マツバボタン

銅 真喜良サンウェーブサッカー部綺音

★ 紙ヒコーキの部

金 真喜良サンウェーブサッカー部聖南

銀 真喜良サンウェーブサッカー部春太郎

銅 双葉子供会サンダンカ

★ 竹うまの部

金 真喜良サンウェーブサッカー部綺音

銀 真喜良サンウェーブサッカー部悠聖

銅 双葉子供会ブーゲンビレア



読者からの声

「はがきエッセー」雑感

歳のせい、日によっては五時頃目が覚めます。外は暗いので散歩も出来ません。なので布団の中でストレッチなどをして時間をやり過ごします。

時々五時を過ぎた頃、玄関で物音がすることがあります。行ってみるとポストに新聞が入っています。この時間帯に届けるには、恐らく四時頃には起きて販売所に行くと思われます。雨、強風、真冬もあります。寝床を離れるのが辛い時もありとあるはず。それでも毎日、新聞を配り続けているのです。その精神の逞しさ、責任感の強さには頭が下がります。

さて、新聞配達者を励ます意味で、新聞配達に関する「はがきエッセー」コンテストが平成六年から始まったそうです。今年で二五回目となりました。毎年十月地元紙にも入選作品が掲載されますので、皆様も一読されたかと存じます。苦労の中にもプラス思考で頑張る配達者の心情が脈々と綴られており、感動を覚えます。中でも私は、第

九回入選作品に特に心が打たれましたのでご紹介したいと思います。

主婦四五歳

娘二十歳、高校入学式前夜、親子三人で食事をとっていた。突然主人が頭が痛いと言い、それ以来意識のない状態で五年が過ぎようとしている。当時お金も無くなり、高校に行かせたくても現実には思いうようにはいかず、泣き伏せる毎日であった。ある日「定時制に変わった、明日から新聞配達をするから大丈夫だよ」と笑顔で一言。翌日寒い二時に起き、自転車で二百軒近くも配るのです。心配でそっと後をつけると「心配したらあかん大丈夫」と言い、次の家へ向かうのです。雨の日、雪の日も私が起きないように、そっと玄関を開けて行く後姿に何度涙したことでしょう。私の知らない方が「ゆきちゃんにあげて」と大根、人参をたくさん持ってきてくれたり、「今日からゆきちゃんに配達してもらおうわ」と言うてくださいたり。また誕生日にも、配達ポストにおめでとうというメモがあったり、本人も驚いている様子でした。販売所であったかいコーヒーを入れてくださり「今日もご苦労さん」と言っ

てくださいたり。そんな中今年の成人式のこと、いつものように二時に販売所に行くのと千羽の折鶴がありました。配達仲間の人や配達先の人達が新聞を読んだ後一羽一羽、お父さん良くなりますように、成人式おめでとうと折ってくださいましたようです。

愚痴一つ言わず、休みもせず頑張った配達、たった一つの新聞で大勢の見知らぬ人達がゆきを見守ってくださいましたのです。ベッドで眠る主人もきつと分かってのことでしょう。ゆきありがとう。

如何ですか、苦難を乗り越えて行くゆきさんの挑戦、そしてその覚悟には学ぶところが沢山あります。

ところで、私達シルバー世代も成長した子供、そして孫がいる年齢に達しました。総じてすくすく育っていかうかと思えます。手前味噌ですが、我が家の豚児たちは子供中心で甘やかして育てたもんだから、未だに親のすねをかじり、自立しそうにありません。このままだと将来の面倒などみてくれるか怪しいものです。頼むからゆきさんの覚悟を参考にして、変容してくれと切望する今日この頃です。

チーム員の横顔

(5)

金城 珍章



- 少年野球指導者
- 街頭指導員
- 風愛好会元会長
- 昔遊び伝承会会長

★ 支援チームでの役割

体験講座を担当します。

★ 抱負

会員の皆様遊びリンピックお疲れ様でした。石垣島昔遊び伝承会を通じて、三世代遊びの大切さを肌感じました。真喜良小学校での出来事で、小学二年生位の子供が竹トンボを飛ばせずに悔しくて母親に泣き付いていました。なんで泣くことないよと手を引き、こんな風になると良く飛ぶからね、と教えると1mからだんだんと伸び、3mくらい飛ぶようになり、喜んでエントリーして子供、母親の涙ぐんだ笑顔が見られました。アッ、これが三世代遊びかな、と思ひ、やってよかったです。



心に響く “ことば”

幼稚園児に語りかけるように...

皆さんの中には、挨拶を頼まれた時に尻込みをしたり、人の話がよく理解できなかったりしたことがある方がいるのではないのでしょうか。

これは、上手く話さなければならぬとか、難しい言葉が多くて、話しは聞いたけど結局分からなかったということではないかと思ひます。

私は仕事から、発表会に出たり、説明会を行ったりということをやっています。ある時上司から、「人に理解してもらうには、幼稚園児に語りかけるようにしなければいけない」と言われたことがあります。

同じ職種の仲間同士では、専門用語や言葉遣いは気にしないものですが、それでもカタカナ語は使わなかったり、平易な言い回しをする等、注意するようになりまし。

ですから、一般の人を相手に話す場合は、できるだけ分かり易い言葉や言い回しを選び、例え話も子供でも理解できる内容のものにする等、工夫するようになっています。



編集後記

三世代楽級も終わり、その集大成となる遊びリンピックが無事終了しました。多くのチームが参加し、講話と昔遊び競技を堪能していただけたものと思ひます。関係者、スタッフの皆さんに心からお礼申し上げます。

これを機会に、昔遊びが更に市民の皆さんや子ども達の間にも広まり、家庭の中での絆が強まることを望みます。

「読者からの声」は如何でしたでしょうか。心が暖かくなった方、逆に同じ心境になった方も大勢おられるかも知れません。皆様方からのいろいろな声をお寄せいただければ、編集の参考にさせていただきますと思ひます。

【編集発行】

石垣市家庭教育支援チーム(希杜南)
希..希望に満ち満ちた未来に
杜..人々に育まれた緑豊かな杜に
南..南ぬ島(ばいぬしま)石垣島より

〒907-0012

沖縄県石垣市美崎町16-6

石垣市教育委員会いきいき学び課

TEL 0980-83-0373

FAX 0980-83-19251